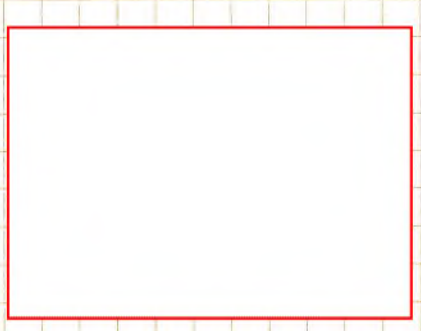
山形県

酒田市について



山形県のことについて調べました！

〔理由〕

8月に、山形県に旅行に行くので、山形県のことについて調べてみたいと思ったから。

〔山形県の面積〕

・面積は約9323㎢。これは東京都の約4.4倍の面積です。また埼玉県の約2.5倍の面積です。

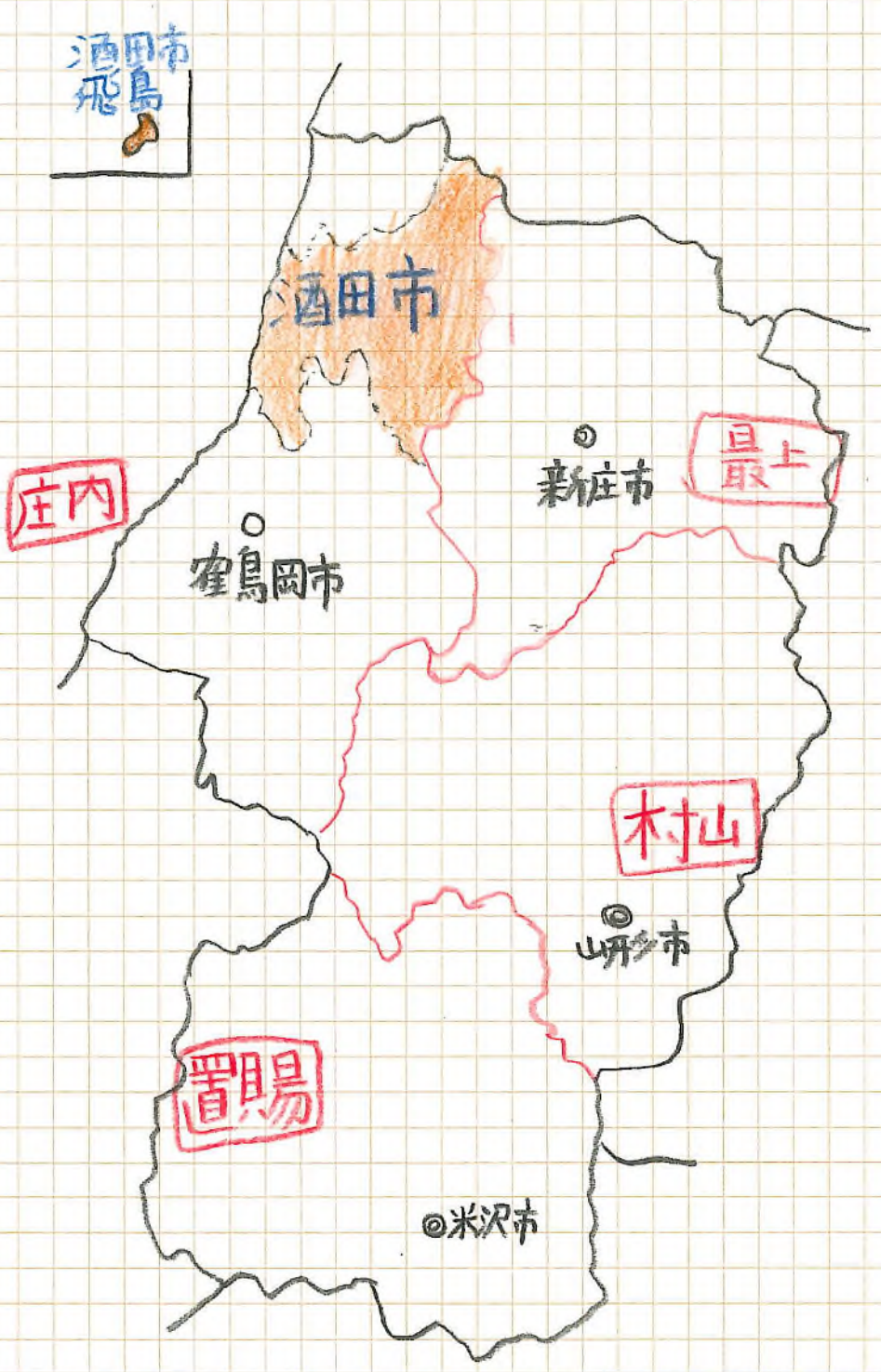
〔山形県の人口〕

・99万9378人（2025年5月1日時点）

〔山形県でとれる食べ物〕

・米
・ほうれんそう
・いも
・かぼちゃ
・ごぼう
・青菜
・うるい
・せり
・にんにく
・かぶ
・いんげん
・豆
・なす
・ねぎ
・大豆
・ひじき
・あさつき
・さくらんぼ
・ラ・フランス
・ぶどう
・すいか
・かき
・りんご
・もも　など

〈山形県の4つの地方〉



・山形県内は、米沢市を中心とする置賜、山形市を中心とする村山、新庄市を中心とする最上、鶴岡市や酒田市を中心とする庄内の4つの地方に大きく分けられる。

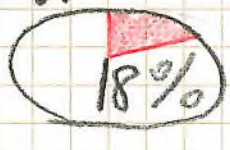
〔山形県の主な生産物〕

さくらんぼ(1位)

ぶどう(4位)

西洋なし(1位)

なめこ(3位)



あけび(1位)

すいか(3位)

- 酒田市のある庄内では、庄内砂丘でメロンがたくさん作られており、とってもあまくておいしかった。
- 庄内平野の米づくりは、農家1戸あたりのこう地面積が他の県にくらべて大きい。「つや姫」というブランド米はつやつやしていてあまみも強く、おいしかった。

〈山形県の酒田市に行って、見たもの、知ったこと〉

〔酒田市〕

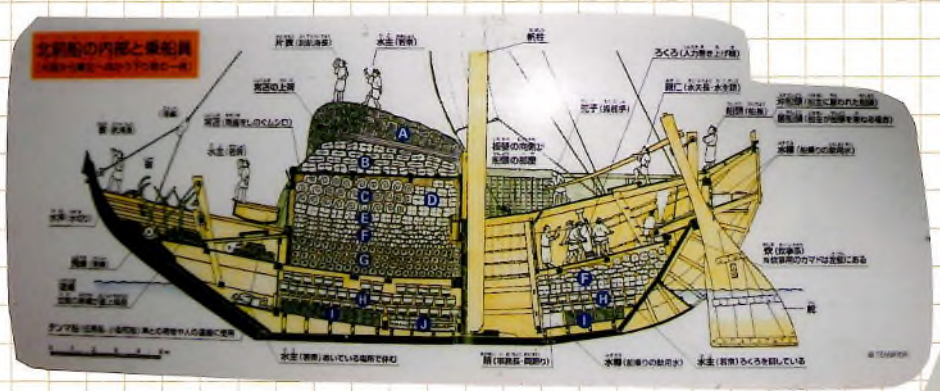
・山形県の北西にある、鶴岡市とならぶ庄内地方の中心都市。江戸時代には、酒田港が日本海側の航路の中心となり、そのは人栄ぶりは「西のさかい、東の酒田」ともいわれ、東北地方くっ指の港町として発展した。

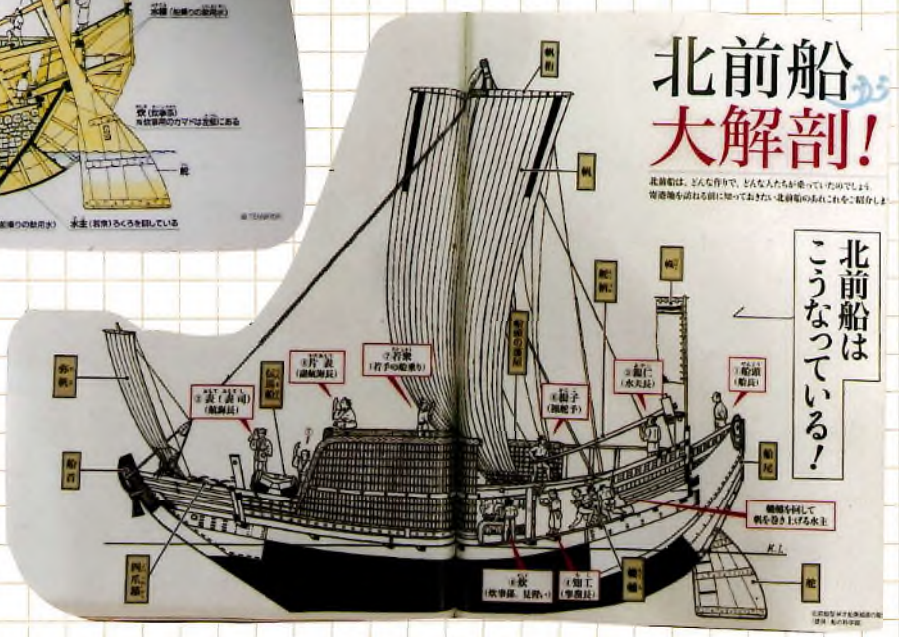
〔酒田市を発展させた家〕

・本間家
・江戸時代には日本一の大地主として知られたごう商。
・「本間様にはおよびもせぬが、せめてなりたや殿様に」とうたわれていた。
・まずしい人を助けたり、木をたくさん植えたり、庄内のお金のしえんなど、地域社会にこうけんした。
・旧本邸は、200坪の広さがあり、部屋数は、23室もある。

〔北前船〕

- 北前船は、米を乗せて、「山居倉庫」という倉庫に米を運んでいた。
- 江戸時代には鉄道や道路がなく、船が唯一一度にたくさんの荷物を運ぶ手だんだった。
- 北前船は、米の他に塩、酒、綿、薬、反物、衣類などの物も運び、商売をしていた。
- 江戸時代から明治時代にかけて、日本海をぶ台に活躍した商船。
- 電信のふきゅうや鉄道の開通などにより、明治時代後期にはすい退した。
- 主に大阪から日本海を北上し、北海道までをむすぶこう路をおうふくした。
- 北前船の寄港地として酒田は、米の集散地となり本間家などのごう商が活躍した。





〔日和山公園にある½スケールで
再現した、北前船〕

〔山居倉庫〕

- 明治26年に建てられた米の保管倉庫。昭和戦前期まで使われていた。

- 夏の高温防止のために、はい後にケヤキ並木を配し、内部の湿気防止には二重屋根にするなど、自然を利用した先人の知恵が生かされた低温倉庫として、現役の農業倉庫だった。

- 山居倉庫1つの大きさは、間口13.6m、奥行29.1m、延床面積396㎡

- 山居倉庫に米は約10800トンも入る。

- 「北前船」から運ばれてきた米を入れる倉庫でもあった。

〔山居倉庫内の様子〕

〔まとめ〕

・酒田市は、ぼくのおじいちゃんのふるさとなので今回、おじいちゃんといっしょに行きました。

・酒田市には、昔、日本一の大地主がいて、とても広いおやしきがのこっていたことにおどろきました。

・おじいちゃんが昔、くらしていた町をいっしょにたんけんできて、楽しかったし、うれしかったです。

・今回は、酒田市のことしか調べることができなかったけれど、次調べる時は、他の地方のことも調べてみたいです。

←本間家の別荘です。